

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地														
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地														
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111														
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士													
工業	工科技術専門課程		応用生物学科			平成21年文部科学省認定	—													
学科の目的		生活必需品である医薬品・食品・化粧品の礎となるバイオテクノロジー分野において、技術者としての実力を備えた社会の中堅たる人材を養成する。健康・衛生関連分野での製造・品質管理などに携わる人材を育成し、実務に関する知識、技術を教授する為、企業との連携を密にする事により実践的かつ専門的な能力を有する人材を育成する事を目的とする。																		
認定年月日		平成26年3月31日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1,800	870			1,110														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数													
80人		63人	1人		3人	4人	7人													
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S: 90点以上 A: 80～89点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格 P: 単位認定														
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日			卒業・進級条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、プロジェクト活動(ボランティア活動、長期インターンシップ)、見学会 ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ニプロファーマ(株)、(株)ペリカン石鹼、名糖産業(株)、他化学、医薬品、化粧品、食品業界 ■就職指導内容 合同企業説明会、個別企業説明会、業界研究会、個人面談を経て自己分析、履歴書作成、面接練習などを行う ■卒業生数 26人 人 ■就職希望者数 14人 人 ■就職者数 14人 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 52 % ■その他 ・大学編入学 11人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>品質管理検定3級</td><td>③</td><td>24人</td><td>16人</td></tr><tr><td>中級バイオ技術者認定試験</td><td>③</td><td>26人</td><td>25人</td></tr></table> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 その他、品質管理検定3級、化粧品成分検定2級、特定化学物質四アルキル鉛等作業主任者、小規模ボイラ取扱等、資格取得を推奨している。授業内での解説や対策講座等を実施し指導をしている。			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	品質管理検定3級	③	24人	16人	中級バイオ技術者認定試験	③	26人	25人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																	
品質管理検定3級	③	24人	16人																	
中級バイオ技術者認定試験	③	26人	25人																	

中途退学の現状	■中途退学者 4 名 ■中退率 6 % 令和3年4月1日時点において、在学者68名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者64名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病気療養・怪我治療 他 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任／科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度 【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度 (成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留学生特待生) 【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度 【留学生特別給付制度】 私費留学生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度 【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度 【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度 (入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除) 【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要とする人材を育成する為に、企業へのヒアリングやアンケートを通して実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。教育課程編成委員会への報告も行い、常に授業内容や方法を検証する事により実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
澤井 孝行	八王子市農業協同組合(JA八王子) 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
富岡 達矢	株式会社 ミートコンパニオン 執行役員	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
柿沼 健一	医療法人社団 慶幸会 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
田中 秀幸	日本工学院八王子専門学校 学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (前期・後期) 本年度は新型コロナウイルス感染症により実施方法をオンライン併用するなどして行った。

(開催日時(実績))

第1回 令和3年 7月19日(月) 15:00～17:00

第2回 令和4年 2月25日(金) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

専門力に加え社会では表現方法も必要とされるため、プレゼンテーションテストは時代に合った評価方法になるのではないかと感じるとの事から、特に考える力が必要になると思うので評価方法としてさらに取り入れてほしいとの意見を受け、さらに工夫をして評価を連携して行っていく。さらに表現力は話術、見せ方、交渉力や折衝力などにつながるという意見を受け、学生にフィードバックをかけ、意識させながら評価方法に取り入れていく。

専門的な所ではHACCPの中でもCODEXにあたる項目も変化しているとのアドバイスを受け今後の授業でも取り入れていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
医薬品、食品、環境、バイオテクノロジー、農業分野に関する実践的な実習や演習を行うために、各分野で必要となる知識、技術、資格を有している企業から現場での作業に則した形での実習の設計を行う。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習の実施を試み、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容		
医薬品・食品分野において実際に現場見学なども含めて実施する。それを受け実験では項目の設定についてアドバイスをもらい、現場で用いられる基準などを使用し実験結果などに関しても管理指標となるような数値を利用して測定できているかなども評価対象にすることとし、評価基準に対してのグレード付も連携企業とともに作成することとした。また、食肉取扱い企業や酒類製造企業などより最新の食品衛生法、HACCPなどについても取り組むよう連携を行っている。化粧品実習に関しては化粧品会社より講師を派遣してもらい、連携授業とする。		
(3)具体的な連携の例		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
化粧品実験	化粧品の製造方法や検査方法について学びます。	(株)シーエスラボ
微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について学びます。	楯の川酒造(株)
植物バイオテクノロジー実験	植物特有の取り扱い方や、植物の構造を利用した実験技術を習得します。	河合農園
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名「化粧品の乳化・可溶化」		
(主催:東京理科大学 講師:山下裕司 准教授(千葉科学大学薬学部薬学科))		
期間:令和3年7月24日(土)13:00~14:30		
対象:応用生物学科専任教員		
化粧品専攻としてどういった実習を行わせるのかを教員間で検討中であるが、今回、学んだ「乳化・可溶化」技術は、すべての化粧品製造技術者に必要な技術であり、その基礎知識をどのように学生に指導すればよいのか考えながら受講した。特に「乳化・可溶化」技術は、界面化学分野として研究されてはいるものの、製造者の試行錯誤やノウハウに基づく傾向があり、指導法としては未成熟であると言わざるを得ない。乳化には界面活性剤の選択を考える必要があるが、どの物質をどの程度使用すれば乳化できるのかを、相図(気相、液相、固相の状態を図に示したもの)を用いて予測する方法などを学ぶことができたので、学生への指導に役立てたい。		
研修名「医薬品試験用水の製造と管理」		
(主催:メルク株式会社 講師:メルク(株)ラボウォーター事業部 石井 直恵 氏)		
期間:令和3年7月7日(水)15:00~16:00		
対象:応用生物学科専任教員		
水は応用生物学科の実験の根幹であり、水なくして全ての実習は成立しない大切なものである。今回は第十八改正薬局方における医薬品試験用水の製造と管理との事であったが、医薬品製造の最も厳しい基準に準拠する為の日々のメンテナンスやキャリブレーションの仕方など非常に参考になる事が多かった。水という基礎的な内容であるがゆえになかなか深掘してこなかった内容についてしっかりと講義いただき、最新の技術でどのように試験用水を作っているのかなど理解できたので非常に参考になり、日々の実習に反映できる内容になったと考える。□		

研修名『『チーズの教本』を読み解く① 製造編』

(主催:NPO法人チーズプロフェッショナル協会)

期間: 令和3年8月7日(土) 14:00～15:00

対象: 応用生物学科専任教員

微生物や酵素による発酵がかかわるチーズの製造について、実際の現場の様子を知るためにセミナーに参加した。チーズの製造について、チーズの凝固過程については、チーズの種類の違いによる、凝固過程の違いなどこれまでに知ることが難しかった知識が得られた。また、実際の製造現場での様子も解説と共に動画にて見ることができ、現場で用いられている道具や、現場での工夫の様子などを知ることができて、専門的な内容の習得に向けた研鑽となった。□

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「即実践！先生の働き方改革」

(主催:東洋経済education×ICT 講師:田中 光夫 氏)

期間: 令和4年1月28日(金) 19:00～20:00

対象: 応用生物学科専任教員

現在の教師を取り巻く環境について説明され教師不足の現状について解説された。それを受けて、業務量の多さや「やらなければならない仕事」と「やっておいた方がいい仕事」の区別がつきづらい教師という仕事においてどのように時間を創出し良い授業にするのが重要になってくるとの事。また、フリーランスティチャーとして短時間でクラスを掌握し、急遽依頼された授業などもしっかりと研究し取り組み等する必要がある中で時代に合った分掌ややらなければならない仕事の効率化ややっておいた方がいい仕事の省略化などを紹介された。これにより学生対応への時間創出への取り組みが進み学生の進路相談や学習支援などへの指導力向上につながる事を学んだ。

研修名: 学びを促すルーブリック(基礎編) ルーブリックの意義と作成方法、ルーブリックの点検と改善(応用編)

(主催:日本工学院 講師:大阪大学全学教育推進機構特任講師 浦田 悠 氏)

期間: 令和3年11月17日(水) 16:50～18:20、令和4年2月16日(水) 17:00～18:30

対象: 応用生物学科専任教員

学習到達度を測るための評価方法の1つであるルーブリックについて意義、作成方法、またその点検と改善方法という内容の研修を受けた。特に数学の様な達成度を数値評価しやすい科目ではなくて、アクティブラーニングが注目されるなか、学習者が主体となって能動的に学習する評価方法として利用されていることを知った。特にグループワークやディスカッション、実技などの「技能」「表現」「思考力」「判断力」といったパフォーマンスや「興味関心」「意欲」「態度」といった課題への取り組み方を明確にできるとともに、事前に学生へ評価基準・評価内容を提示することで公平・公正な評価を付けられる事と採点者が異なったとしても比較的ブレの少ない評価ができるという事を学んだ。

研修名: STEAM教育シンポジウム

(主催:東京大学大学院情報学環山内研究室 座長:荒木貴之氏、パネラー杉山氏、矢作氏、和田氏、久保田氏)

期間: 令和4年3月30日(水) 17:00～18:30

対象: 応用生物学科専任教員

「ドルトン東京学園におけるSTEAM教育について」(ドルトン東京学園 荒木貴之氏)

「学習者中心の教育」を目指し、「主体的に学び、探究・挑戦し続ける姿勢」を育てているドルトン東京学園の校長 荒木貴之氏より、実際にドルトン東京学園で行われたSTEAM教育の事例の紹介を受けた。中等部の生徒が実際に取り組んだ縦穴式住居の作製の様子や、レゴマインドストームを用いたSTEAM教育の実例の紹介の後、STEAM教育を受けた生徒と受けていない学生の能力比較のデータなどから、STEAM教育の有効性などが示された。さらにSTEAM教育におけるSTEAM教育の注意点、教材の開発過程、開発した授業の選択基準などノウハウも紹介された。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「インターフェックスWeek 東京 医薬品化粧品研究・製造 展」

(主催:RX Japan株式会社)

期間:令和4年7月13日(水)～7月15日(金)10:00～18:00

対象:応用生物学科専任教員

医薬品・化粧品の研究・製造に関わるあらゆる製品・技術・サービスが一堂に出展する日本最大の専門技術展に参加することで最先端技術に関する情報収集を目的とする。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「SSHに見る科学技術人材の育成の取り組み」

(主催:ICT CONNECT21 講師:本多 真行(文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教育第二係長))

期間:令和4年7月13日(水) 18:00～19:00

対象:応用生物学科専任教員

文部科学省よりSSHの指定を受けた学校で行われている科学技術人材の育成のため、様々な取り組みを行っていることを受け具体的な事例を参考に、施策の狙い、成果などを学び本学科学生への指導方法、指導内容などを向上させることを目的とする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。

・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかったのので、関連する内容には入れても良いと思います。

・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。

・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。

・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思います(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。

・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気をもたらえるものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。

・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思いますが、製作室や実習等の新設などの取組によって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場で必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりびと」を多く輩出していただきたいと願っております。

・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントになるではないかと思います。

・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。

・株主総会もオンラインの時代ですので保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。

・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げてください。

・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思います。メンタルトレーニング的なものも取り入れても良いかと思います。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和4年9月30日

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

(3)情報提供方法

ホームページ

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程応用生物学科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自由 選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアデザイン1	専門教育を生かしたキャリアデザインを考えます。	1・後	30	2	○			○		○		
2	○			学習技法	本学科で必要とされる、習得すべき学習技法を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
3			○	フレッシュマンセミナー	本学科で学ぶ意義を理解します。	1・前	15	1	○			○		○		
4			○	ビジネススキル	社会人として必要とされるビジネススキルを磨きます。	1・後	15	1	○			○		○		
5			○	スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。	1・通	30	1			○		○		○	
6	○			バイオ実験の方法と考え方	実験の基本的注意事項について学びます。レポートや報告書の作成方法について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
7	○			基礎生物学	生命の成り立ちなどの理解に必要な生物学の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			基礎化学	物質の性質や化学構造、化学反応式などの基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
9	○			基礎数学	バイオ実験に必要な数値処理を理解する為の数学的手法の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
10	○			分析化学	バイオ実験に必要な溶液の濃度表記法や酸・塩基の考え方、緩衝液について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
11	○			微生物学	微生物の種類、構造、性質、培養法などについて学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
12	○			応用微生物学	環境衛生や食品衛生、医薬品生産など様々な産業における微生物の利用法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
13	○			有機化学	生命反応の理解に必要な有機化学の構造と性質および反応の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
14	○			生命有機化学	有機化学で学んだ内容を活かして、生体分子の機能・反応・役割について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
15	○			物質の生化学	生命機能の維持に関わる糖質、アミノ酸、脂質などの構造と性質を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
16	○			酵素と代謝の生化学	生命機能の維持に関わる代謝系や光合成、生体調節の仕組みを学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
17	○			遺伝子工学	遺伝子操作技術を学び、有用物質などを大量に生産する方法を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
18	○			統計学	医薬品・食品分野に関する実験において必要となるデータ処理法とその考え方について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
19	○			基礎バイオ実験	バイオ実験において必要となる生物・化学実験の基礎知識と基本操作を習得します。	1・前	120	4			○	○		○		
20	○			生化学実験	生物の重要な構成要素であるタンパク質と酵素の取り扱いに関わる実験技術を習得します。	1・前	120	4			○	○		○		
21	○			微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について習得します。	1・後	120	4			○	○		○	○	○

授業科目等の概要

(工科技術専門課程応用生物学科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
22	○			遺伝子組換え実験	生物からのDNA抽出法など遺伝子工学技術の基礎を習得します。	1・後	120	4			○	○		○		
23			○	インターンシップ1	インターンシップに参加して実践力を養います。	1・通	30	1			○		○		○	
24			○	キャリアデザイン2	専門技術・知識を生かした活躍の場を手に入れる為のマナーや心構えを身につけます。	2・前	15	1	○			○		○		
25			○	プレゼンテーション	様々な場面で必要とされる、プレゼンテーション能力を磨きます。	2・前	15	1	○			○		○		
26			○	スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。	2・通	30	1			○		○		○	
27	○			分子細胞生物学	生物の基本単位である細胞と細胞内分子との協調理解によって生命現象の本質を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
28	○			植物バイオテクノロジー	植物特有の構造を知り、植物を用いたバイオテクノロジーについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
29	○			化粧品科学	化粧品を支える科学技術に関して全般的に学び、化粧品を総合的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
30	○			衛生学	健康の維持、増進、疾病の予防・発見に向けた様々な取り組みについて学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
31	○			免疫学入門	生体の持つ防御機能である免疫の仕組みについて学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
32	○			機器分析化学	バイオ実験で用いる分析機器の測定原理や分析方法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
33	○			生理学	ヒトの体のつくりや形、仕組みを学ぶとともに、器官、組織、細胞と視点を小さくしながら学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
34	○			薬の作用	体内に入った薬が病気に効く仕組みや、薬の有害作用と毒作用について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
35	○			食品化学	食品に含まれる栄養素とその機能について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
36	○			食品分析	食品中の栄養成分の測定法や食品の検査法とその原理について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
37			○	品質管理	品質管理に対する知識を習得すると共に、品質管理検定試験に向けた対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
38			○	バイオテクノロジー	生化学、微生物学、遺伝子工学、分子生物学などバイオテクノロジーを総論的に学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
39	○			生体高分子化学実験	タンパク質の取り扱いや動物細胞の培養などに関係する技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
40	○			植物バイオテクノロジー実験	植物特有の取り扱い方や、植物の構造を利用した実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○	○	○
41	○			分子生物学実験	遺伝子操作や遺伝子発現解析実験など分子生物学分野の実験技術を習得します。	2・通	120	4			○	○		○		
42	○			医薬品実験	医薬品の分析技術や研究・開発にかかる様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(工科技術専門課程応用生物学科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
43	○			食品実験	食品の分析技術や食品の安全を守るための様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
44	○			化粧品実験	化粧品の製造技術や成分の分析技術など様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○			○	○
45	○			環境・衛生学実験	作業環境や医薬品・食品の品質管理に関わる環境検査・衛生検査法を習得します。	2・後	60	2			○	○		○		
46			○	実験動物学実験	実験動物の取り扱いや生命倫理について学びます。	2・通	30	1			○	○		○		
47			○	インターンシップ2	インターンシップに参加して実践力を養います。	2・通	30	1			○		○		○	
合計					47科目		1980単位時間(95単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1710時間(82単位)および選択科目90時間(6単位)以上取得し、合計1800時間(88単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。